

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部 局 名	産業経済部		
	課 名	耕地課		
	係 名	土地改良係		
	記 入 者		電話(内線)	182

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	市単農道整備事業				(3) 事業の 優先度	A	
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市			
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)		
② 施策コード	31307		(総合計画掲載ページ)				会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	3		歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)				財源区分	市単独		
基本施策	1		元気あふれる農業の振興(農業)				予算科目	款 6	項 1	目 8
施策			農村環境の保全				予算書上の	農道整備事業費		
施策内容			農業用排水施設の整備				事業名称	(予算書 121 ページに掲載)		
(5) 事業期間					(8) 事務分類					
	開始		年	月から		根拠法令				
	終了		年	月まで (力年)						

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
農道舗装要望箇所	舗装整備することで、集出荷の効率化を図り、農産物の品質・鮮度の向上を図り農業経営の安定化を図る
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
未舗装道路の舗装	
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
生活道路としての要素の高い、土木課対応の市道舗装以外の農道部を対象とし、地元要望箇所を順次整備を行う	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映							
実施計画													
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）							
事業内容		26 年度		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度			
(1) 事務事業費の コスト	事業費	実施設計委託		270		2,648							
		農道舗装工事		16,740		26,471							
	合計		17,010		29,119								
	財源	国庫支出金 (千円)											
		県支出金 (千円)											
		地方債 (千円)											
		その他特定財源 (千円)											
		一般財源 (千円)		17,010		29,119							
		合計 (千円)		17,010		29,119							
補助・起債制度名													

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	農道整備延長	目標値	m		1,240	1,240	1,240	1,240	
		実績(見込)値		1,047					
		目標値							
		実績(見込)値							
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	農道整備延長	目標値	m		1,240	1,240	1,240	1,240	
		実績(見込)値		1,047					
		達成率		84.4 %	0.0 %				
		目標値							
		実績(見込)値							
		達成率	%	%					
5. 事業評価									
(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。 少ない予算の中で整備延長を伸ばせるよう、現場を精査し設計内容を検討し対応した									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	住民からの要望が多く、必要性は高いと考える。					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である						
	手段の妥当性	A	妥当である	少ない予算と人員の中で、直営での測量・設計で対応している路線もあり、対応できる範囲が限られる可能性がある					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	少ない予算と人員の中で経費を抑えるために、直営での測量・設計で対応している路線もあり、コスト・人員効率は高まっている					
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない						
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	整備された路線については、成果が得られたと判断できるが、要望量から判断すると、予算が少ないために整備するまでの年数がかかり成果は低迷している					
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	対象となった路線については一定の進捗度を得られるが、全体の要望量から判断すると進捗度を得られてはいない。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。 最大の問題点は、予算がないことである。予算が確保され、予算に見合うだけの人員が確保されれば、目的に対し成果は向上すると考える									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？ 予算の確保と予算に見合う人員確保									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		27年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)			要望箇所が多いが早期な農道の整備をするため予算を確保しながら効率的に進めていく必要がある。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				